

なかつぼ
中坪遺跡(第3次) その2
続々発見！奈良時代・室町時代の遺構

発掘調査開始から2ヶ月あまりが経ち、多くの遺構が発見されています。今回は見つかった遺構の中から、興味深い2つの遺構をご紹介します。

1. 木材と杭列が見つかる



水利もしくは治水のためと思われる木材と杭列

現在の用水路に並行して、室町時代に使用されていた溝の跡が見つかりました。

溝を掘り深めていくと、その下には奈良時代の土器を含む古い流路が見つかりました。そこから左にある写真のような規則的に配置された木材と杭列が見つかりました。これらは水流を意図的に制する目的で作られた水利もしくは治水のための設備と考えられます。

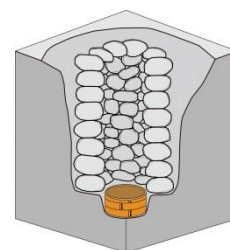
2. 石組井戸が見つかる

あなし
穴師神社の西、用水路のすぐわきから内径70cmほどの井戸が見つかりました。20～30cmの平たい石を積み重ねて作られた石組井戸です。朝見地区では、こうした石組井戸が鎌倉～室町時代に作られていたことがこれまでの調査で分かっています。今回発見された井戸の埋土からは、室町時代の土器片が見つまっていることから、この井戸が役目を終えたのは室町時代であったことがわかります。

今回の調査では、この井戸以外にも多数の井戸が見つかっています。



鎌倉～室町時代の石組井戸



(断面イメージ図)

<問い合わせ先> 〒515-0325 三重県多気郡明和町竹川503
三重県埋蔵文化財センター調査研究1課
担当者：鐸木、水谷、中井、森
電話：0596-52-7028 FAX：0596-52-7035
E-mail：maibun@pref.mie.jp